

令和6年度「総括評価表」(徳島県立城南高等学校)

評価・評定の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

自 己 評 価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善の方策	
重 点 目 標	重 点 課 題	具体的な活動とその評価指標（⇒印）	活動の実施状況と評価指標の達成度（⇒印）	総合評価（所見）		学校関係者意見
基本的な生活習慣の確立を図り、教育活動を通して、社会人として必要な資質や能力を育成する。	遅刻の防止に努め、保護者と連携して生活改善を図る。	遅刻防止については、担任による常時指導（家庭への連絡を含む）とともに、遅刻の多い生徒については累計１０回の時点で生徒指導課による生活習慣指導を行い、１５回で保護者同席の上で生徒本人を交えて、担任や学年主任、生徒指導課長で生活改善について話し合い考えさせる機会をもつ。 ⇒遅刻数９００回以内（前年度１２０１）、遅刻ゼロの日年間１０日以上（前年度８日）	遅刻数は昨年度よりも増加し、２学期終了時で１０００件を超えている。体調不良者（持病がある）が数名おり、ほぼ毎日遅刻しているケースもあるが、ここ数年、交通渋滞が非常に悪化しており、特に雨天時など、車の送迎による遅刻者は増加している。時間に余裕をもつように繰り返し呼びかけてはいるものの、遅刻数は減少していない。 寝坊等で遅刻が１０回を超え、面談による指導を行った生徒は３名である。 ⇒遅刻数は２月末で１３４７回と９００回以内は未達成である。遅刻ゼロの日は１５回で目標を達成している。	B 遅刻数を減少させることはできていないが、９割近くが車での送迎時における交通渋滞によるものである。	自転車の交通事故については、登校時の事故が多いようである。急いでいることが原因で事故が増えている可能性があるので、生徒たちに余裕を持って出発するよう指導を継続してほしい。	時間に余裕を持った登校について、重ねて指導していく。
	生徒の話し合いにおいて決定しているルールについて、ルール遵守への指導、支援に努める。	頭髪・服装については、担任による常時指導（家庭への連絡を含む）とともに、全校集会もしくは学年集会で全体指導を行う。重ねての指導を要する生徒に対しては、再指導を行う。それでも改善されない場合は、保護者と連携して指導を行う。（靴下・校章等が多い） ⇒改善を要すると指導を受けた生徒の改善率（１００）％	違反者も以前に比べて減少し、校則を守る意識が向上した。本年度も校則の見直しを行い、新たにシュシュの使用と靴下の色の緩和を行った。当初はシュシュの色のルールなどが徹底できていなかったが、２学期途中からは守れている。 ⇒服装・頭髪指導を受けた生徒の改善率は、１００％である。ただ守らせるだけではなく、目的の理解やルールメイキングに関する意識更新もサポートしていきたい。	A 校則の見直しを行い生徒の意識も高まった。	ルールづくりに対する指導や支援を継続してほしい。	生徒会と教員で十分に話し合いながら、ルール内容の確認と見直しを継続していく。
	交通事故防止に努める。	通学時の交通ルールの遵守を徹底させ、交通マナーを身につけさせる指導を行う。 ⇒立哨指導年間（１００）日以上 事故件数２０件以内（前年度２８件）	副担任を中心に毎日学校近隣の場所二か所で指導を行った。大事には至らなかったものの、本年度の事故数は２７件で昨年度の総数より２件増加している。しかし自転車運転時の交通マナーに対する苦情は減少しつつある。 ⇒立哨指導を７３日（２月１７日現在）実施した。	B 事故が２件増加した。	事故の増加が心配される。自転車の運転マナーについて、繰り返し指導をしてほしい。	学校での指導のみならず、ヘルメット着用を含め、家庭での話し合いの機会を設けてもらうよう呼びかけを強化する。
	いじめ防止に努める。	よりよい人間関係を築かせ、いじめのない学校づくりをする。いじめが起これば認知し、早期に対応し解決をはかる。 ⇒学校生活に関するアンケートを年（２）回以上実施し、あれば認知し解決するため早期対応を図る。（昨年度認知件数１件解決済み）	個別面談や三者面談に加えて、５月と１２月にアンケートを実施し、いじめなど、現状の把握に努めた。本年度はいじめとなる事案は０件であった。また、生徒主体の「生徒生活向上委員会」が発足したことにより、生徒目線での安心安全な学校生活についての活動や意見交換をしやすくなった。 今後も絶対にいじめは許さないという態度で集会等で呼びかけをするとともに、アンケートや面接週間等を利用して、早期発見に努めたい。 ⇒アンケートを年２回実施した	A 本年度は認知なしであった。	松柏会の人権研修に参加して、城南高校の人権教育の一端を知り、こうした取組が、落ち着いた学校生活につながっているものと考えられる。生徒アンケートでも他者の思いやりや人権を尊重しているとする生徒が９９％以上を占めるなど、生徒の評価をしても高いものがあるが、１％弱の生徒の存在に留意し、いじめのリスクはどこにでもあるとの認識でサポートを継続してほしい。	トラブルが起きた際に、早急にきちんと話し合いができていれば大きな事にならない事案が多いので、問題の早期発見、早期対応に努め、組織的に問題解決を図る。
	生活習慣の指導等の健康教育を推進し、健康及び成長発達への理解を深めるとともに、自主的に健康管理ができる能力の育成を図る。	①保健だよりの発行（年間１２回以上） ②校内モニターでの健康管理や安全に関する情報提供（年間１００日以上） ③健康教育に関する講演等（年間１回以上）	①保健だよりを年間１２回発行し、生活習慣改善についての記事を連載した。 ②校内モニターによる健康安全に関する情報提供を年間１２０日以上行った。１２月に１・２年生対象に生活習慣改善啓発動画の視聴を行った。 ③７月に、全校生対象の熱中症予防講演会及び保健指導、職員並びに部活動代表生徒対象の心肺蘇生法講習会を行った。	A 成長発達や傷病予防において、生活習慣が重要であるとの認識が高まった。健康の自己管理の重要性についての意識が高まった。	いざという時に正しく迅速に行動できるよう、心肺蘇生法講習会は毎年教員も生徒も可能な限り受けてほしい。	生活習慣の改善は継続が難しいので、生活リズムが崩れた場合の早期の立て直しについて継続的な指導を行う。 感染症や熱中症のリスクに応じて、予防や早期対応に必要な知識と判断力、実践力の養成に努める。
	学校環境衛生と感染症対策に努め、健康を守る環境の構築を図る。	①学校環境衛生についての巡視と環境整備（毎月１回以上）	①学校環境衛生についての巡視と環境整備を毎月行った。	B	今後も環境整備を続けてほしい。	学校環境衛生についての整備と、日々の巡視に、継続して取り組んでいく。

			感染症が増加する冬場の換気の 励行が必要である。		
防災教育を推進し、災害時の実践 力を育成する。	①防災に関する訓練を年（２）回実施する。 ②防災について関心の高い生徒の割合を（８０）％以上にする。	①７月に地震対応の避難訓練を全校で実施し、生徒は校舎３・４階への垂直避難を迅速に行うことができた。また、ホームルームごとに二次避難場所である徳島霊園またはニュータウン城南台まで歩き避難経路の確認を行った。 ９月に実施した環境防災ホームルーム活動では、東消防署から講師を招き防災に関する授業を行った。 ②防災について関心の高い生徒は、７４．７％にとどまり、令和５年度の８０．７％を下回った。	B 地震等の災害を自分事として捉えられない生徒が増えてきたように感じる。南海トラフ巨大地震を念頭に、防災教育を考えていきたい。	徳島大学の先生や地元の防災士、城南高校出身の建築士など、防災に関する地域人材にご協力いただくことで、防災意識の向上を図ることができると思われる。	防災への関心が昨年より急激に低くなっている。令和６年は能登地方を震源とする地震等もあったが、それらを身近な問題として捉えられない生徒が増えているように思われる。 南海トラフ巨大地震の３０年以内の発生率が８０％程度に引き上げられた今、防災教育のさらなる充実を図り、啓発を進めていく。
各自が責任を持ってゴミの分別や環境美化に努め、持続可能な学校作りに貢献することができる。	自分の分担場所の清掃を責任をもってやっている生徒の割合を（９０）％以上にし、校内の美化が継続できている。	責任感を持って清掃をしている生徒は９６．４％であり、校舎内外の美化が保たれている。	A ほとんどの生徒が、分担場所の清掃にきちんと取り組んでいる。	今後も環境美化に努める姿勢を育てほしい。	短い時間の中で責任感を持つて清掃を行うことができおり、今後も継続して指導していく。
生徒が充実感・達成感を感じられ る学校行事と部活動を展開する。	①学校行事について生徒会と意見交換を行い、より良い行事内容になるように努める。 ⇒生徒による学校行事満足度（８０）％以上 ②部活動は顧問の専門性を配慮して配置し、日々の指導において現場での指導を充実させる。 ⇒生徒による部活動の満足度（８０）％以上	①生徒会との意見交換を活発に行い、協議を続けながら新しい取組について考え、学校行事がさらに充実したものとなるように努めた。具体的には、生徒会組織を拡張し、メンバーや役割を増やし、生徒の意見を多く取り入れ、工夫したものを加えて新しい形を模索、実行した。そのため、満足度も従来の数値に戻り、概ね好評だった。 ⇒生徒による学校評価アンケートでの学校行事満足度は９７.４％であった。 ②専門性、本人の希望に応じて顧問を配置し、日々の指導も生徒との会話を重視して行っている。 ⇒生徒による学校評価アンケートでの部活動満足度は９１.６％であった。	A 生徒会との意見交換を通して、学校行事の検証や改善を行うことができた。 また、部活動においても生徒理解に努めながら、適切な指導を行うことができている。	生徒の部活動に対する充実度は９１％であるが、部活動と勉強の両立ができているとの回答は７０％である。相談体制の強化が必要と思われる。	今後も生徒会との意見交換を行い、未来の形を模索しながら、学校行事のあり方や実施方法を検討していく。 また、顧問同士の対話や部員と教員との対話を多くとることで、部活動内の状況把握に努め、生徒理解を深める。
人権尊重の精神の積極的な啓発に 努め、人権意識の高揚を図る。	①人権ホームルーム活動の活性化を図るため人権委員会の活動の充実を図る。 ⇒人権委員会の実施　年間（５）回以上 ②人権啓発行事（人権展・人権映画会等）を実施し、人権啓発新聞「TOMORROW」を発行する。 ⇒「TOMORROW」の発行を年間（３）回以上 ③ヒューマンライツ部を中心に特別支援学校との交流を進める。 ⇒交流会を年（３）回以上実施	①人権ホームルーム活動実施記録を人権委員に毎回提出してもらい、成果や課題の共有を図った。 ⇒人権委員会は、２月２０日現在で６回実施している。 ②全校生徒を対象に人権映画会を実施した。また、教職員対象に人権問題意識調査を受けての結果分析・賀川豊彦についての研修を行った。 ⇒人権映画会１０月３０日実施、教職員研修２回実施 人権啓発新聞「TOMORROW」を発行し生徒及び保護者の人権意識の啓発に努めた。 ⇒人権展を各学期１回ずつ年３回実施 賀川豊彦展開催（２/１０～２/２１） ③徳島聴覚支援学校との交流会を催し交流を深めた。 ⇒交流会を各学期１回ずつ年３回実施	A 人権ホームルーム活動の記録用紙や映画会の感想、研修会のアンケートより、真剣に取り組み理解を深めた様子が伺えた。特に映画会は効果的であったと思われる。	社会活動家であった賀川豊彦の業績を知ることを通して、生徒の人権感覚を高めることができると思われる。	人権問題意識調査の結果や人権教育推進委員会の意見を参考に生徒の実態を把握し、実態に応じた人権啓発の取組の精選や講師等の開拓に努める。賀川豊彦の業績を顕彰する各種団体との連携も検討する。
読書活動の推進をし、本を読む習慣を確立させ、基本的な読解力・考える力を身につけさせる。	『図書館情報』『図書館報』の発行や図書委員による広報活動を通じて、読書を奨励する。 ⇒図書館の年間（４月～翌３月）総貸し出し冊数、（２０００）冊以上	司書による適切な選書、『図書館情報』の発行、読書会等を昨年度に引き続き、年２回行った。また、ホームルーム担任、教科担任によりホームルーム活動や授業での図書館利用が積極的に行われた。図書委員も貸出業務や『図書館報』の作成等を確実に行った。 ⇒４～２月（１８日現在）の貸出冊数は３２０５冊であった。昨年度同時期に比べ１０００冊以上増加した。	A 図書の借り出し、調べ物、自習等で生徒は図書館をよく利用している。入館者数も順調に増加している。	活字離れが懸念されている中、読書推進活動を更に進めていってほしい。	『図書館情報』等の広報を充実し、貸出を増やしたい。 来年度は　classi　による個別の配付を行いたい。今年度は夏季休業前に１、２年生に向けて小論文対策ブックリストを配付したのも貸出数増加に繋がった。 小論文対策や探究活動など、様々な場面で利用できるように、生徒や教員のニーズに応じて図書館の充実を図っていきたい。

<p>G I G A ス ク ー ル 構 想 の 実 現 に 向 け、一 人 一 台 端 末 等 を 活 用 し た 新 た な 学 び を 推 進 す る。</p>	<p>教員の教科指導力を高め、I C T 等を活用し、わかりやすく生徒が興味・関心を持てる授業を実践する。 3年生の進路実現のため、生徒の実態に合わせた科目選択ができる補習授業を実施し、生徒の成績向上に努める。</p>	<p>各学期に設ける授業参観週間での教員相互間による授業見学や、年間2回の生徒への授業アンケートを実施し、教科指導力の向上を図る。</p> <p>⇒生徒による授業満足度（80）%以上</p>	<p>①教師それぞれが、わかりやすく生徒が興味・関心を持てる授業に努め、授業評価を1学期末・2学期末の年2回実施した。1人1台タブレットの活用やI C Tを活用した授業改善を行った。 ⇒生徒による授業評価での授業満足度は 1年生 91%（昨年度94%） 2年生 93%（昨年度95%） 3年生 93%（昨年度94%）であった。</p>	<p>A</p> <p>授業満足度は目標を上回っていた。生徒の学力を伸ばしていくことで、キャリア意識の育成に向けてさらに授業改善に努めていきたい。</p>	<p>生徒による授業評価での授業満足度が高く、素晴らしい。 今後も生徒が学びがいを感しながら切磋琢磨し、学力を向上させていけるような授業を展開してほしい。</p>	<p>本校の校風である「自主・自立」の精神のもと、生徒が主体的に学ぶ力を育てていきたい。 今後I C Tを活用しながら、個別最適な学びについて、検討実施していく。</p>
	<p>情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能を習得し、新たに学校における基盤的ツールとなるI C Tを最大限活用しながら、問題解決や探究の過程において必要な情報が活用できる人材の育成を図る。</p>	<p>①生徒は、情報科や総合的な探究の時間の授業を通じて育成を図る。</p> <p>⇒授業の（50）%以上で一人一台端末等を使用し、情報技術を活用する素地を養う。</p> <p>②教員は、I C T活用教材の提示などによる情報交換を通じ、多様な生徒たちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を図る。</p>	<p>①今年度は、情報などの授業におけるレポートの提出、総合的な探究の時間におけるプレゼンテーションソフトを活用した発表など、少なくとも1回はレポート作成またはプレゼンテーションの作成ができた。また、生徒間における評価も、Microsoft formsを用いて行うなど、1人1台タブレットを活用した授業の工夫を行うことができた。 ②多くの教員が電子黒板やタブレットを利用した授業を展開している。また、Zoomを活用した集会や講演会などを通し、I C T活用能力を養うことができた。</p>	<p>A</p> <p>全体的にはI C T活用能力等養うことができ、概ね目標は達成できている。一部にはI C Tの活用を苦手に思う生徒・教員もいるため、授業や研修を通して苦手意識の解消を図る必要がある。</p>	<p>タブレットの使用にも工夫が見られた。引き続きお願いしたい。</p>	<p>1人1台のタブレットのより有効な活用について、生徒に対する講習会や教員に対する研修会を複数回実施し、積極的にI C Tを活用できる人材の育成に努める。</p>
<p>生徒一人一人の進路実現に向け、学力（三つの柱）の向上を図り、組織的なキャリア教育を推進する。</p>	<p>家庭学習の重要性を理解させ、自ら学ぶ姿勢を育成し、学習習慣の確立に努める。</p>	<p>①「フォーサイト手帳」や面談等を利用して生徒に家庭学習の重要性を認識させ、家庭学習時間調査を定期的を実施し、生徒の学習の状況を教員間で把握する。また、各教科で週末課題や宿題を課すなどを通して、自主的な学習習慣の定着を図る。</p> <p>⇒ a 家庭学習時間調査を年（4）回実施する。 b 一週間の家庭学習時間の学年平均目標は、1年生（16）時間</p> <p>2年生（16）時間</p> <p>3年生（21）時間 ②3年生対象に自習室の開放を土曜日に実施する。</p> <p>⇒年間（15）回以上</p>	<p>①「フォーサイト手帳」を有効利用することで、生徒が主体的に時間管理することを促した。また、担任は生徒の学習状況を把握し、その結果をもとに各教科で学習習慣の定着を図る取組を行った。 ⇒連続する1週間の家庭学習時間調査を年間3回実施した。1週間当たりの家庭学習時間の平均は、 1年生 14. 3時間／週 2年生 16. 4時間／週 3年生 21. 5時間／週であった。（3年生は年間1回）</p> <p>②⇒年間17回実施した。</p>	<p>B</p> <p>調査日に試験期間を除く設定も含め、普段の学習時間を伸ばそうと試みたが、1年生が目標とする時間に届かなかった。2年生と比べると1日の学習時間が30分程少ない。概ね学習時間は確保されているが、調査法も含めて改善したい。</p>	<p>1年生は家庭学習時間の目標達成ができていない。進路が明確でないことが原因の一つと考えられる。大学でどのような学びを行っているのかなど、様々な進路情報の提供を学校側でも積極的に行い、早めの進路目標や進路選択に関する意識づけを行ってほしい。</p>	<p>進路目標の実現には高い学力が必要であるということを生徒たちにしっかりと理解させ、毎日の宿題や小テストの実施などの取組を通して、日頃から家庭学習をする習慣を身につけさせたい。 家庭学習を習慣化させるためには規則正しい生活リズムの形成が必要である。本人に自覚させることは当然必要であるが、保護者にも協力を要請していきたい。</p>
	<p>生徒の進路希望の把握に努める。</p>	<p>年度当初の面談や夏季休業中の三者面談の他に常日頃から計画的に面談を行い、生徒の進路希望を把握するとともに、その実現に向けての指導を的確に行う。 ⇒ a 担任等による個人面談を年間（4）回以上実施する。 b 面談の満足度（80）%以上 c 3年生の進路検討会を（4）回以上実施する。</p>	<p>⇒ a 個人面談を全学年で1学期に1回設定、2学年は教科面談を2学期に1回、3学期に1回設定した。 面談週間以外にも、生徒との面談を積極的に行った。 b 学校評価アンケートで、面談が進路選択に役立っていると答えた生徒は、 1年生 73% 2年生 85% 3年生 96%</p> <p>保護者は、 1年生 84% 2年生 81% 3年生 93%</p> <p>であった。 c 進路検討会を3年生は4回実施した。</p>	<p>A</p> <p>進路希望を達成できるよう、面談等を通して生徒や保護者の進路希望の把握に努めている。 進路情報誌の精選を行い、年度当初に計画して、適切な時期に配布するよう努めた。</p>	<p>面談が進路選択に役立っていると感じている生徒と保護者の割合は毎年高く、安定している。 次の段階として、難関大学への進学を目指す学力を持つ生徒を育ててほしい。 入学や入社することが目的でなく、そこでの学びやキャリアアップを目的として、進路先を決定し、目指す学力をもつ生徒の育成を図ってほしい。</p>	<p>進路講演会やオープンキャンパス等への参加など、将来の自分の進路について考えさせる機会をさらに増やしていきたい。 広い視野で自己の将来を考えさせるために、広範囲に渡って情報提供し、選択の幅を広げさせることも大切にしていきたい。</p>
	<p>充実した進路情報の提供を図る。</p>	<p>①オープンキャンパスや各種説明会への案内、その他生徒の進路に必要な情報を適切に生徒に提供する。 ②外部講師を招聘し、各学年（1）回以上進路説明会を実施する。 ③校内進路情報誌『進路』等の活用を図る。 ⇒学校が提供する情報が役立っていると感じる生徒（80）%以上。</p>	<p>⇒学校評価アンケートで、学校が提供する情報が役立っていると感じている生徒が79%、保護者が89%であった。</p>	<p>B</p>	<p>今後も生徒や保護者が知りたい進路情報を適切な時期に適宜与えてほしい。</p>	<p>1年生のアンケート結果がやや低めであるが、進路目標が定まっていないことが原因と考えられ、早めの意識付けを図る。</p>

	就職指導の充実に努める。	できるだけ早い時期に生徒の希望を把握し、求人開拓を図るとともに、就職・公務員模試や補習、面接指導を実施する。 ⇒模試は1・2年生希望者（2）回以上、3年生希望者（3）回以上実施する。	民間企業への就職希望者が2名いたが、両名とも希望する企業に就職することができた。また、公務員希望者1名、自衛隊曹候補生希望者1名も合格した。模試については、3年生及び1・2年生の希望者がいなかったので実施していない。	A 今後も生徒全員がそれぞれ希望する企業に就職できるように指導していく。	生徒の多様な進路希望の実現に向けて引き続き指導をお願いしたい。	就職後の社会人としての心構えなども含め、事前指導をしっかり行っていく。
	スーパーサイエンスハイスクールの活動をすべての教育活動にも生かし、成果を生徒の進路実現につなげるとともに、県下への普及を図る。	①スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の取組により、生徒の理科や数学への興味や関心を深め、理科や数学の基礎的な学力を定着させるとともに、発展的な応用力も身に付けさせる。 ⇒SSHの取組により理科や数学の興味・関心が深まり、その理解が深められたと自己評価する生徒（70）%以上 ②科学部の自主的研究活動を促し、各種科学賞での入賞を図る。 ⇒各種科学賞等での入選数（7）以上 ⇒全国大会への出品（2）以上 ③活動成果の県下への普及を図る。 ⇒小学生及び中学生対象実験教室の実施（2）回以上 ④普通科総合的な探究の時間の充実に図る。 ⇒成果発表会の実施（1）回以上 ⇒自己の在り方生き方を考えながら、主体的に問題を発見し解決する力を養う「探究」活動への生徒満足度（70）%以上	①SSHの課題研究や高大連携講座など、様々な取組を通し、生徒の理科や数学への興味や関心を深め、理科や数学の基礎的・発展的な力が身につくよう努めた。 ⇒応用数理科3年生に実施したアンケート・自己評価で3年間の活動に対する「満足」92.6%、科学的な見方・科学的に問題解決する力が身についたとする生徒88.5% プレゼンテーション能力が向上したとする生徒96.2% レポート作成能力が高まったとする生徒92.3% 研究方法や技能の習得ができたとする生徒96.2% ②理科担当教員による放課後の指導等により、科学部の自主的研究活動を促し、各種科学賞での入賞を図った。 ⇒日本学生科学賞徳島県審査優秀賞2、入賞2 ⇒第78回科学経験発表会 特選1、入選3 ⇒全国高等学校総合文化祭自然科学部門 ⇒中国・四国・九州地区理数科高等学校課題研究発表会ポスター発表 ⇒スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会発表 ⇒徳島県生物学会研究発表 高校生の部 最優秀賞1 優秀賞1 ③⇒中学生対象理科実験教室を1回、小学生対象理科実験教室を1回、計2回実施した。 ⇒徳島大学と共同で、徳島県SSH高等学校課題研究および科学部研究研修会を2回開催し、延べ10校203名の生徒に参加してもらうことができた。 ④1年生では「理数探究基礎」を履修し、それをもとに、2年生の「総合的な探究の時間」で1年間かけた探究活動を行うことにしている。 今年度は、外部との連携やクラス間の交流、2年生探究活動中間発表会での他学年間交流、応用数理科との合同発表会を行うなど、活動の幅が広がってきた。 ⇒中間発表会と成果発表会を実施した。 ⇒学校評価アンケートでは、「理数探究基礎」「総合的な探究の時間」における生徒満足度は、82.3%であった。	A SSHの活動に対してはどの項目でも評価が高く、3年間の活動が充実していたことがうかがえる。本校企画のものについてはオンラインも活用し、実施を進めた。 課題研究では高い評価をいただくことができた。全国大会への出品は2点できた。課題研究指導のノウハウや成果物については研究成果発表会等で紹介するとともにホームページで案内している。 生徒は探究活動に前向きに取り組んでおり、今後も生徒の主体性を育成し、能力の向上や各種コンテストでの成果獲得を図っていきたい。	AIがグローバルに広まってきている。生成AIなどの基礎となるのが理数系科目である。理数系科目に力を入れ、理科や数学に強い生徒が育つ環境を整えてほしい。 理数科学的な視点から社会問題を解決していくというような力を今後ますますつけていってほしい。そこから将来起業するような人材が育つことが期待されている。	SSHの取組等の成果を評価する仕組みの改善や全校体制を目指したSSH推進課の組織の再構築、普通科探究活動の発展、また「チャレンジ授業（研究授業）」の充実に図る。
成年年齢引き下げに対応した主権者教育や消費者教育を、教科指導等と関連付けて推進する。	現代社会に目を向け、民主社会を形成する主権者としての意識向上を図る。	生徒の主権者意識を高めるための出前講座を実施する。 ⇒出前講座を年（1）回実施	徳島文理大学の吉川友規氏を講師に招き、出前講座を2年生対象に実施し、事後アンケートの結果も良好であった。	A 出前講座の事後アンケートの結果は良好であり、その意識や成果を公民科の授業や社会での実践に結びつけることが重要である。	成年年齢が引き下げられたことにより、これまで以上にしっかりと主権者教育を行ってほしい。	選挙権年齢に続いて、令和4年4月に成年年齢が18歳に引き下げられたことから、投票行動のみならず民主社会を形成する一員としての自覚を高校生の段階からいかに促していくかが課題であり、生徒会をはじめとする特別活動との連携を考えていく。
	消費者被害等の危機を自ら回避できる能力を育成する。 持続可能な社会の実現に向けた消費生活を実践できる能力を育成する。	①「契約トラブルや金融の仕組みについて理解できた」と回答した生徒の割合を（70）%以上にする。 ②「持続可能な社会について考え、実際に行動することができた」と回答した生徒の割合を（75）%以上にする。	①消費者教育は主に1年生の家庭基礎で1月に実施しているため、12月に行った調査では、1年48%・2年59%・3年78%と1年生で低い数値となっている。しかし、2月にも金融教育出前講座を実施したことで、生涯にわたる金融	B 持続可能な社会について、昨年	消費者教育やESDなどを成人する前に徹底的に行う必要がある。	「18歳成年」を踏まえ、消費者教育を学校生活のあらゆる場面に広げていく。 持続可能な社会については、ゴミの分別を徹底するなど、自分の行動が何かを変える一歩に

			<p>との関わり方を学ぶことができ、満足度は高かった。</p> <p>②探究の授業や家庭基礎、環境美化・エシカルクラブの活動などを通して持続可能な社会について考えたが、１年５４％・２年５４％・３年７５％と昨年度より低下している。</p>	<p>度より数値が低くなったものの、地域環境美化活動などへの取組は積極的であった。</p>		<p>なることを自覚させ、行動に責任が持てる生徒の育成を図る。</p>
<p>コミュニティ・スクールの充実を図り、保護者や地域から信頼されたい学校づくりを推進する。</p>	<p>家庭や地域社会と連携及び協働し、地域や保護者の信頼に応える学校づくりの推進に努める。</p>	<p>積極的な情報発信に努める ⇒ホームページの更新回数、月（１０）回以上 ホームページへのアクセス件数、年間（４５万）件以上</p>	<p>多くの記事を更新することができ、たとえば、ホームページのSSHの活動報告における更新回数は月平均６回にのぼった。</p> <p>ホームページへのアクセス件数は１年間で約１００万件以上となり、昨年度と同様程度の閲覧数となった。</p>	<p>B</p> <p>アクセス件数を増やすため全ての分野での更新と魅力あるページの作成に努力したい。</p>	<p>アクセス件数から本校への関心度の高さがうかがわれる。</p>	<p>ホームページの更新に努める。 中学生や保護者のアクセスが多いことから、ニーズに応じた更新を行っていく必要がある。</p>
	<p>松柏会の活動を充実させ、保護者や地域の方々と協力しながら生徒の成長を促す。</p>	<p>進路説明会、大学視察、進路講演会・座談会の実施（年１回） 体育祭バザーや祖父母の会を実施して、交流を深める。（年１回）</p>	<p>進路説明会については３年生は松柏会総会時に、１・２年生については１０月に実施した。</p> <p>大学視察については岡山大学を訪問し、入試課の方より大学概要・入試概要についての説明を聞いた後、本校卒業生７名も参加してくれ、３グループに分かれた車座になり、保護者からの質問に答えるなどして、進路に対する意識を高める有意義な研修となった。</p> <p>進路講演会・座談会については、講師に代々木ゼミナール大阪南校の山根正義氏をお迎えし、「大学入試の現状と受験生を持つ保護者の心構え ～親のこころ子のこころ～」と題して講演をしていただいた。また、卒業生７名を講師に迎えての座談会では、たくさんの質問に対して具体的な回答をしていただき、生の声を聞くことができた。</p> <p>体育祭バザーではジュースとアイスクリームの販売をしていただき、祖父母の会では阿波和紙を使用したポチ袋作りを通して、交流を深めることができた。</p>	<p>A</p> <p>年度当初に予定していた学校行事は全て予定通り実施することができた。松柏会活動を通して更に保護者との連携を深め、生徒のサポートや成長について一緒に考えていきたい。</p>	<p>大学視察での特に卒業生の話が保護者には大好評であったようであるので、何らかの形で共有できるようにしてほしい。</p>	<p>大学視察や進路講演会・座談会については、さらに参加者が増えて活発な研修となるよう、企画内容や案内方法などを検討していく。</p>
	<p>コミュニティ・スクールの活性化を図る。</p>	<p>学校運営協議会委員の持つネットワークを活用し、地域の方と連携しながら学校運営・教育活動を展開するため、年（３）回学校運営協議会を開催し、学校運営や必要な支援に関する議論を深める。</p>	<p>学校運営協議会を年３回（第３回は３月１３日）実施した。</p>	<p>B</p> <p>学校運営協議会では、学校経営方針を承認いただくとともに、交通安全や学校行事、SSH海外研修等を中心に、学校運営の改善に資する意見をいただいた。</p>	<p>人口減少や少子化が進む中で、我々の将来を担う人材育成は非常に重要であり、地域の意見を反映する場として、この協議会は貴重な機会と捉えている。</p> <p>コミュニティスクールの活動については、保護者の満足度が高く、今後も地域人材の活用を進めていきたいと考えている。</p>	<p>学校運営協議会での議論を深め、いただいた意見を学校運営・教育活動の改善に生かしていく。</p> <p>また、地域に開かれた学校づくりを進めていくために、地域人材の活用に取り組んでいく。</p>
<p>風通しの良い環境づくりに努めるとともに、業務改善により働き方改革を推進する。</p>	<p>働き方改革を推進することで、教育活動の充実を図る。</p>	<p>学校閉庁日（２日以上）を設定する。</p>	<p>学校閉庁日（８／１３、１４の２日間）を設定した。</p> <p>また、各課や校務運営委員会で意見を出し合ったり、職員アンケートを行ったりして、具体的な改善案を示すことができた。</p>	<p>A</p> <p>校務分掌等の適正化や学校行事の見直しなどが急務である。</p>	<p>持続可能な教育活動のためには、働き方改革を適切に進めていってほしい。家庭に担ってもらふべきことは、松柏会などを通して要望し、協力してもらえばよいと思う。</p>	<p>今後も働き方改革を通し、業務の適正化や学校行事の見直しはもちろんのこと、教員一人一人がやりがいや学びがいを持つて職務に取り組むことができる学校組織の改善に努める。</p>